

平成 18 年 10 月 24 日

各 位

神奈川県横浜市西区みなとみらい二丁目 2 番 1 号
横浜ランドマークタワー

ラ ン ド コ ム 株 式 会 社

代表取締役社長 青木俊実

(コード番号：8948 名証セントレックス)

問い合わせ先 取締役経営企画室長 上田宏幸

電話番号 045 (664) 2001

(URL <http://www.landcom.co.jp>)

『J-ケーススタディ・ハウス』プロジェクト 未来建築の創出へ向けた、国際的コンペ開催のお知らせ

本日の日本経済新聞に掲載されました通り、当社では、かねてより構想しておりました「J-ケーススタディ・ハウス」プロジェクトの具体的な展開へ向け、国際的な編集型コンペの開催が決定しましたのでお知らせいたします。詳細は下記の通りです。

記

「J-ケーススタディ・ハウス」プロジェクトとは、次世代を見据えた日本の新たな住まいのスタイルを生み出す試みです。

1. 本プロジェクトの意義

当社の創業からのテーマは「不動産価値の最大化」。

それは、単に顧客のニーズに適った住宅や施設を建設し提供することや、資産としての不動産価値を高めることにとどまりません。そこには、常に時代とライフスタイルの変化を捉え、次世代へ向けた新たな文化的価値を創造し提唱していくことをミッションとする、という意味が込められています。

モノと情報に溢れる現在、価値観の多様化と共に、ライフスタイルを優先する考え方へと変わりつつあります。

「仕事にも、プライベートにも充実とこだわりを求め、自分の感性で暮らしをリファインする」といったスタイルを持つ消費者が都市を中心に増え始めました。

効率性や利便性を重視した既成概念に囚われず、立地環境を最大限に生かした建築造形美を追求し、住まう人の感性や人間性を育む空間のあり方を見つめ直す。同時にコミュニティや環境問題などの社会性にも配慮する

————— そんな近未来型の建築を創造する試みが「J-ケーススタディ・ハウス」プロジェクトです。

また、本プロジェクトで創られた作品や、培われた技術は、そのコンセプトを再構築し、住宅の次なる可能性を見据えた新たな提案型商品として事業化していく予定です。

2. プロジェクトタイトルについて

「ケーススタディ・ハウス」は、20世紀ミッドセンチュリー時代に、先鋭的クリエイターから一般読者まで絶大な支持を得ていたビジュアル・アーツ誌「アート&アーキテクチャ」の編集者、ジョン・エンテンザ氏が企画した、近代住宅のプロトタイプ開発を目指す試みです。チャールズ&レイ・イームズ、エーロ・サリーネン、クレイグ・エルウッド等錚々たる建築家を起用し、1945年から1966年にかけてアメリカ西海岸において36のプロジェクトが計画され、内25件の建設が実現しました。

当時、新しい社会単位としての核家族化と、第二次世界大戦の終焉による建設ブームを背景にスタートしたこのプロジェクトは、近代的なデザインと工業化住宅を想定した経済性を兼ね備え、その後のアメリカ・モダニズム建築の礎を築いた、アメリカ建築史上最大のムーブメントとなりました。

また、その思想と美しい造形は、約半世紀を経た今もなお、世界的の人々を魅了し、多くの建築物に影響を与え続けています。

「J-ケーススタディ・ハウス」は、このプロジェクトの考え方を現代に継承し、日本から世界に発信していく試みとして名づけられました。

3. コンペ概要

本プロジェクトの遂行にあたって、すでに実績のある著名なアーティストから、独創的で秘めた才能を持つ若手アーティストまで、その門戸を世界に広げ、オリジナリティ溢れる「思想」と「造形」を選びすぐるべく、物件ごとに国内外の第一線で活躍するアーティストを編集型コンペにより選出します。

※ 編集型コンペとは

デザイン、アート、ライフスタイル等にとどまらず、今後の製品化をも踏まえ、包括的にコーディネートするもの。メディアと連携し、アーティストによるプロジェクトの進行状況をオンタイムで発信。単なる指名コンペにとどまらず、プラスαの価値を生むことを目的とする。

- プロジェクトは期間を数年間に、また戸数も限定した企画とし、作品集の発行を予定しています。
- #001、#002以降もコンセプトにふさわしい、ストーリーのあるプロジェクト用地をランドコムが選定し、取得していきます。
- コンペの審査員には、建築家のみならず、文化人、アーティスト等幅広い人材を予定。審査員長には、当社代表取締役社長 青木俊実が就任します。
- アーティスト選出後は、作品の価値を理解でき、以下の条件を満たすことができるオーナーを募集します。
 - ① 竣工後8週間以内に作品を一般公開すること。
 - ② 公開の際は、建築家、デザイナー、家具製作者、造園家、アーティストによりコーディネートされた状態で公開すること。
 - ③ 公開以降、実際に住宅として使用すること。

4. プロジェクト概要

(1) 「J-ケーススタディ・ハウス#000」

本プロジェクトの本格的な始動に先立ち、J-ケーススタディ・ハウスのプレ段階として、由緒ある古い建築物を再生し、新たな息吹を吹き込むプロジェクトをすすめています。

「J-ケーススタディ・ハウス#000」の題材としたのは、大磯駅からすぐの、旧山口勝蔵別荘。明治末期に建築された大磯のランドマーク的な存在の洋館であり、現存する最古の2×4工法の建築物とされています。歴史的文化的建造物を保存するため、外観はほぼそのまま活かしたうえで、インテリアデザイン中心の再生を行うこととしました。

編集型コンペにより、改装は佐藤一郎氏が代表を努める株式会社エイジに決定。「落ち着いた中にも南イタリアのエスプリを感じさせるハイセンスな空間」「豊かな自然を生かした海と日差しを感じる開放感のある空間」をコンセプトに、改装に着手しています。2006年12月末完成予定です。

J-ケーススタディ・ハウス#000 外観写真（改装前／撮影2006年8月）



(2) 「J-ケーススタディ・ハウス#001」

本プロジェクトの本格的なスタートの舞台は、アメリカ西海岸をイメージし、温暖な気候と自然に囲まれた海辺の高台、油壺です。

日本のヨット発祥の地とされる相模湾は、遠くに富士山、箱根、丹沢の山々や江ノ島などを望む、都市郊外地の中でも最高のロケーションを有します。シーボニアに代表され、古くから多くの著名人の別荘地として有名な油壺はこの相模湾に面し、その美しい景観は神奈川県景勝50選にも選ばれました。

静かで穏やかな海面が季節や時間の移ろいを映し出し、風が緑豊かな木々の呼吸を運ぶ、本プロジェクトの本格的なファースト・ステップに相応しい環境といえます。

「J-ケーススタディ・ハウス#001」は、2007年秋の竣工を目指しています。

J-ケーススタディ・ハウス#001 概略地図



(3) 「Jーケーススタディ・ハウス#002」

プロジェクトのセカンド・ステップとして選定したのは軽井沢です。

古くは峠の宿場町だった軽井沢。その魅力を世に知らしめたのは明治時代、イギリス人宣教師によるものでした。以来、多くの文化人、富裕層たちの避暑地や住居として愛され続けてきました。

旧三笠ホテルなどの建造物や、樹齢 850 年にも達する峠のシナノキなど、指定文化財も多く、官民あげての環境保護活動によって、世界に誇れる美しい環境を保ち続けています。

新幹線の開通以来、都心から 1 時間強というアクセスの良さも相まって、夏季のリゾートや別荘としてだけでなく、実住の地としてもますます人気が高まりつつあります。

「Jーケーススタディ・ハウス#002」は、2008 年初夏の竣工を予定しています。

その他の詳細については追ってお知らせいたします。

以 上